

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	0472200476
法人名	特定非営利活動法人 もみの木会
事業所名	グループホーム もみの木
所在地 (電話番号)	柴田郡柴田町船岡東2-8-5 (電話) 0224-58-3240
評価機関名	特定非営利活動法人介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階
訪問調査日	平成 19年 8月 20日

## 【情報提供票より】(19年 7月 1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 4月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 8 人, 非常勤 2 人, 常勤換算	8

### (2) 建物概要

建物形態	併設/○単独	○新築/改築
建物構造	木造造り	
	1 階建ての	階 ~ 1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円
敷金	有( 円)	○無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 円 月額 36,000円		

### (4) 利用者の概要( 月 日現在)

利用者人数	9 名	男性 2 名	女性 7 名
要介護1	1 名	要介護2	5 名
要介護3	3 名	要介護4	名
要介護5	名	要支援2	名
年齢	平均 82.7 歳	最低 60.1 歳	最高 87.9 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	船岡今野病院・佐藤内科クリニック・歯科ヒライ
---------	------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

理事長が母の認知症発症を機に創生したグループホームである。運営方針として地域、家族との継続した結びつきを重視し、入居者本人が日常の生活行為の中で無理なく持っている力を発揮し、その人らしく過ごすことができるよう支援することを掲げており、職員は日々の介護にあたっては常に理念に照らして、その反映を図っている。又「区長さんや地域住民が当ホームを大切に思い、見守りや協力をしていただけることがとても有難い」と理事長が話していることから、地域との関係の良さが窺え、町担当者との連携も日常的に行われている。管理者、職員は日々のケアにおいて、利用者本位、尊厳を大切にし、笑顔の絶えない自由な暮らしを目指し更なる向上に努力している。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価における課題はそれぞれ対応され以下の通りである。運営推進会議は11月に発足し現在まで3回開催され、ホームの質の確保に貢献している。又、相談、苦情申し立ての外部機関として地域有識者を第三者委員としてお願いし、町、県保連など家族にも周知済みである。更にヒヤリハット、事故等の再発防止に向けて月に1度検討会を開催し活用もされている。地域への情報発信手段としての「もみの木便り」も年に4回発行し配布もしている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者はサービス評価の目的、意義をよく理解しており、全職員にも伝え、一人ひとりが自己評価に取り組み、その後全体会議で話し合い共有の上とりまとめた。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は昨年11月に発足し3か月に1度、現在まで3回開催し、それなりに貢献している。又、ホームの概要、現状報告などや認知症への理解に関する説明なども毎回行ない、啓発への機会ともしている。出席家族、委員からも積極的に意見、要望、質問も出され、町担当者からは助言、協力をいただいている。</p>
	<p>家族会は「もみの木家族会」として今年3月に結成され、年に5回開催予定で、既に2回終了し、家族からは医療行為、介護度が進んだ場合や、重度化、終末期でのホームの対応、経営状態、家族の面会状況、その他、質問、提案がなされ、ホーム側でも積極的に意見、要望を聞き今後活かそうとしている。入居者、家族、ホームとの理解、親睦の機会として近場での一泊旅行についても提案し、了承され準備をしている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>幼稚園や小学校での運動会に招待され参加したり、地区の敬老会、公民館での催しへの参加など機会ある毎に交流している。地区の区長は運営推進会議委員として積極的にホームに関わり、提案、助言をされ、入居者によるホーム前での「子供見守り隊」への実現にむけても関係部門に働きかけている。ホームは町中に立地しており、入居者は散歩、買い物など地域の方に見守られ、受け入れられて穏やかに生活している。</p>

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	平成15年グループホーム創設時にスタッフと共に作り上げた理念であり、「住み慣れた地域での安らげる暮らし」「地域との交流」「家族との連携」を掲げた独自のものである。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は、スタッフ会議、申し送り時にも日々のケアと理念との一致について繰り返し伝え話し合っており、職員も良く理解し、常に心に留めてケアに取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しており、区長や近隣の人達はホームを大切な社会資源として理解している。敬老会や幼稚園、小学校の運動会への招待など、交流の機会は多く、利用者による帰宅児童へのホーム前での見守り実施に向けて、関係者に働きかけも行なっている。職員も感謝の気持ちを忘れず挨拶を欠かさない。		
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義、目的を職員に伝え、自己評価に当たっては全員で取り組み、会議の中で話し合い、とりまとめている。外部評価への認識として、第三者による外部からの気付き、向上するための大切な足がかりと受けとめ、評価後は改善計画シートを作成して改善に取り組み、前年度の要改善事項は全て達成されている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は3か月に1回開催され、ホームからの現状報告、家族からの要望、区長、有識者からの質問、提案など毎回活発に話し合われ、議事録を家族に渡し、公表もしている。	○	運営推進会議をできるだけ2ヶ月に1回を目途に開催され、地域住民や地元の関係者とのつながりや事業所の理解者・応援者を少しでも多くするよう期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームと町担当者との関係は良く、日頃から現状を理解してもらい、相談、助言ももらっている。入居者の栄養摂取等について専門的な観点からの助言、指導も町の管理栄養士からいただいている。ホームでは、認知症等への相談受け入れについて、機会ある毎に地域にPRし、要望があれば市町村事業への派遣にも取り組みたいとしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族が面会に来た時、入居者の病院への受診付き添いで来た時等、積極的に声がけし日頃の様子を知らせ、行事などでの写真を見てもらっている。1か月に1度ケア担当の職員が金銭報告と共に近況などお便りもし、時には電話で意見を聞いている。家族向けのホーム便り「たんぼぼ」は年に4回発行している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	今年3月に家族会を結成し、年に5回の会合を予定している。既に2回実施し家族からは介護度が進んだ場合のホームでの対応への質問など活発に話し合われた。面会の家族が少なくなっている現状もあり、家族同行の一泊旅行を計画しつつ、意見、相談への工夫をこらしている。	○	面会の家族も少なくなっている中で、アンケートを取ったり努力されているが、家族からの困りごとや不安なこと程よく聞く機会を少しでも多くして頂くようお願いしたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員が交代するなどの事態が生じた時は、入居者への動揺を配慮し、新入職員との引き継ぎ期間を充分にとり、不安を抱かせないように対応している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は受講案内の都度希望をとりいれ、積極的に受講の機会確保に取り組み、内部研修は1か月に1度テーマを取り上げ、レポートでの提出を実施することもあるなど、意欲的である。職員も自己研鑽の場として、資格取得の場として受講に前向きであり、日勤者も4名居るなど研修に参加しやすい面もある。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同町内にある4つのグループホームと積極的に交流し、11月には相互に交換研修も予定されている。又、県のグループホーム連絡協に加入しており、相互見学、研修の機会も多い。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	同法人が経営するディサービスの利用者が入居したり、ケアマネージャーからの紹介で入居となるケースなどあるが、利用するに当たっては本人、家族にホームを見学してもらい、1か月程度の試し期間を経て納得の上で利用開始を決めている。その間職員も本人の自宅訪問をして馴染みの関係を作るなどスムーズに移行できるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	「その人らしさを理解し、共に寄り添って過ごしたい」 「入居者の笑顔でストレスが吹っ飛ぶ」と話されているように、特別視せず年寄りの知恵を学んだり、支えあって穏やかに生活している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者が自分の思いや、やりたいことを表現する言葉が少なくなっていく中で、食事やお茶など寛ぎの場面で優しく語り掛け、表情からも汲み取るなどして、思い・意向の把握に努めている。日常の関わりの中では、センター方式でアセスメントし、変化にもいち早く気づき、適切に対応するように努力している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケア担当の職員は生活を共に過ごす中で知り得る入居者の思い、希望や家族などの意向を月に1度の全体会議で伝え、全員で情報を共有し、なお多くの目線での気づきを話し合いながら、本人に必要なプランの作成に当たっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアプランの見直しに当たっては、本人、家族の意向をとりいれながら、月に1度の全体会議で話し合い、一人ひとりについて全員で現状の把握、評価を行なった上で継続、見直しを決め、ケアプランを作成、見直しし家族に渡している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院への受診の際や理美容院への送迎にも家族の希望によっては行なっており、空き居室でのショートステイへの取り組みにも対応する用意はある。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居契約時に医療受診について話し、希望も聞きそれに従って対応している。入居者の受診前、受診後の情報の伝達は細心に行なっており、現状医療面での不安は家族にはみられないが、今後の医療面での24時間支援体制は欠かせないとして、夜間での医師、看護師の体制作りの検討を行ない、働きかけをしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化、終末期におけるホームでの取り組みについては、家族会、運営推進会議でも家族から提案され、「指針」を定め、「意思確認書」も作成し家族の同意も得ている。現状、訪問看護ステーション、夜間往診医師への打診はしているものの、未だ契約には至らず、対応を急いでいる。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	理念とは別に「私たちの目標」としてプライバシーや個別性の尊重、尊厳の保持をパンフレットにも記し、全職員もそのように対応している。又、日常的なケアの関わりの中で不適切な面が見られた時は「ケア主任」等がそっと声がけするなどしており、個人情報書類などは戸棚に目隠しをするなど配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床から就寝、その後とホームでの24時間の生活を過ごす中で、どれだけ本人に寄り添い、自由な生活の為に支援できるか、課題の一つでもあろうが、一緒に過ごす内に表情からくみとり、生活歴を思い起こしながら希望に添って柔軟な対応に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者は職員と一緒に盛り付け、配膳、下膳とそれぞれができる力を発揮し、食事時は職員も一緒にテーブルに着き、こぼれ、よごれをさりげなくケアしながら、ゆつたりと穏やかな口調で話題を提供しながら食事をしている。又、居室で食事をする入居者への支援もみられ、自由なペースでの暮らしもうかがえる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日の入浴や、就寝前に入浴なども勧めているが、サービス利用時の習慣なのか日中に入浴を希望されるようである。拒否する方でも工夫して誘導し、2日に1度は入浴してもらい清潔、衛生を保持している。洗髪を嫌がる方の場合には家族に相談し、一週間に1度、理美容院で洗髪をしてもらうなど、一人ひとりに合わせ柔軟に対応している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	朝食後皆で手作りの玄米ダンベルで身体を動かしたり、編物、縫い物、洗濯物を干したり、とりこんでたたんだり、できること、得意なことを支援し、達成感、満足感を感じてもらおうようにしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物、散歩、ドライブや月に1度は行事担当職員が計画し、花見、外食など行なっている。家族と一緒に近場での一泊旅行を企画し、現在準備の段階であり、家族会でも承認を得ている。	○	外出の機会を作りいろいろ努力されているが、入居者が戸外の行きたいところへそれぞれ出かけているとは言い難い。少しでも多くの入居者が満足できるよう支援をお願いしたい。
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関に鍵は掛けず、入居者の動きをみながら対応している。一人で外出してしまう方もいるが、地域の皆さんと顔見知りとなっていて、見守られ、知らせてもらうこともある。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策として救急救命訓練も含め、年に4回入居者と共に避難訓練等を実施し、夜間を想定しての訓練も行っている。マニュアルもあり訓練での積み重ねもあるので、それらに従って対応できると職員は話し、次回の訓練では更に地域の方たちへの連携強化もお願いしている。災害備蓄についても用意されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人ひとりの食事、水分の摂取量は個人ファイルに記録し把握できている。前回評価での課題であった栄養バランス等への専門的なアドバイスについても、現在は柴田町の管理栄養士の協力をもらっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームに設置されている備品、調度類は家庭的で入居者にとって馴染みのものである。小上がりの和室にある大きな仏壇には目をひかれたが、お盆などには入居者が理事長(住職)と一緒にお経をあげたりもしている。共用空間は自然光をとり入れ明るく、職員の声かけは穏やかで優しい。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室にトイレ、洗面台も据えつけられ、温湿計もあり清潔、快適、プライバシーへの配慮があり、利用者はそれぞれ自分に合わせて、筆筒、テーブルなどを持ち込み、自由に時間を過ごしている。		